

研究課題名：がん患者・職場関係者・医療者に向けた就業支援カリキュラムの開発と
普及啓発手法に関する研究

課題番号：H25ーがん臨床ー一般ー004

研究代表者：国立がん研究センターがん対策情報センター

がんサバイバーシップ支援研究部長 高橋 都

1. 本年度の研究成果

本研究課題は平成 22-24 年度のがん臨床研究事業 (H22ーがん臨床ー一般ー008) 引き継ぐプロジェクトであり、すでに開発した各種教材を発展させ、研修カリキュラムなどの形で活用度を上げることを目指した。

平成 25 年度には (1) 各関係者に向けた支援リソースの開発継続、(2) 支援リソースを利用した研修カリキュラムの開発と評価、(3) 看護師および企業関係者を対象とした支援実態調査の実施、および (4) 社会に向けた情報発信を行った。

(1) 患者・家族および関係者に向けた「がん患者の就業支援リソース」の開発継続

① がん専門医向け「仕事と治療の両立に向けた患者支援ガイド」冊子の作成

多忙ながん専門医が臨床場面で無理なく提供できる就労支援について、各種の調査知見に基づき、小冊子を作成中である。

職場との効果的な情報共有のあり方については、専属産業医 35 名を対象として「職場でがん患者の就業配慮を検討する際に役立った/逆効果となった治療医のアクション」について、調査票自由記述と対面式ヒアリングで事例を収集した。その分析に基づき、治療医が職場向けに診断書や診療情報提供書を準備する際のポイントをまとめた。

目次は以下のとおり。

- ・ 確定診断がついた場面で行うべきアクション：就労継続の勧奨や相談窓口の情報提供
- ・ 職場との情報共有場面で行うべきアクション：診断書や診療情報提供書の書き方のヒント
- ・ 治療と仕事の両立に向けて患者に提供できる資料集（書籍、小冊子、相談窓口など）

② 患者向け就労「がんと仕事の Q&A」（体験談・資料集つき）第 1 版の修正。

平成 25 年 2 月に公表した「がんと仕事の Q&A」の編集やコンテンツに対する評価と修正点に関する意見を、i) 患者・家族、ii) 医療関係者、iii) 企業関係者 から収集し、追加掲載すべきコンテンツや利用者の利便性を高める編集方法について検討した。平成 25 年 12 月までに、患者・家族計 30 名、医療関係者 5 名、企業関係者 5 名からのコメントを調査票自由記述と対面式ヒアリングで収集し、分析中である。

第 1 版は概ね高評価だが、追加掲載すべき内容として「さまざまな背景の患者の体験談」「事業主・人事の立場から患者を雇用することへのコメント」「人事担当者に相談する際のポイント」などが挙げられた。

(2) 各関係者に向けた多角的な教育研修カリキュラムの開発

研究班で開発した支援リソースを用いて、①産業医、②産業看護職、③医療ソーシャルワーカーのそれぞれを対象とした研修カリキュラムβ版を開発した。カリキュラム開発にあたっては教授設計法専門家のスーパーバイズを受け、一部ケースメソッド法も用いた。また、各職能

集団の既存の研修インフラと連携した実施展開を可能にするため、研修実施の枠組みや研修指導者養成についても検討した。平成25年には①2回、②3回、③1回のパイロット研修を実施し、受講者の反応や評価に基づいて各研修内容を改善するとともに、受講者の就労関連知識と支援自己効力感の前後比較評価を実施した。現在、研修の実施マニュアルも作成中である。

(3) 各関係者の意識・支援実態調査の実施

① 外来・病棟看護師対象調査

都内大学病院勤務看護師を対象としたフォーカスグループ・インタビューを実施し、がん患者の就労支援に向けて院内の多職種連携をはかる際のノウハウや障壁を分析した。

② 企業関係者調査

愛媛県内患者会と連携し、県内3ヶ所の商工会議所の協力を得て、企業320社を対象とした無記名自記式質問紙調査を平成26年1月に実施予定である。調査票では、企業の属性（業種・規模）、産業保健スタッフの有無、がん患者就労支援経験の有無、就労支援の意識、無理なく実施できる具体的な支援の内容について、想定事例を用いて質問する。

(4) 社会に向けた情報発信

平成25年度は医療者（医師・医療ソーシャルワーカー、産業医、産業看護職）やがん体験者の立場から、就労問題の現状や支援の課題に関するオープン参加シンポジウムを2013年12月7日に開催し、約130名の参加を得た。

2. 前年度までの研究成果

本課題は平成25年度のみ単年度課題である。

3. 研究成果の意義及び今後の発展性

本研究班の前身である平成22-24年度の研究班では、複数の社会調査を通じて、わが国のがん患者と家族が直面する就労問題や関係者の支援行動の実態を多角的に明らかにし、その結果に基づいて各関係者向けの支援リソースを開発した。開発した支援リソースを想定使用者に広く活用してもらうためには、支援リソースの広報に加えて、具体的な活用ノウハウを伝える教育カリキュラムが必要である。

本研究班で開発する研修カリキュラムは、がん治療と就労の両立に向けて、産業医、産業看護職、医療ソーシャルワーカーの各職能集団の支援力向上に寄与すると考えられる。また、一連の研修カリキュラムは各職能集団の既存の研修インフラとの連携を視野に入れており、持続可能な形での全国展開が期待される。

治療スタッフに向けては、就労に特化した研修カリキュラムの開発よりも、多忙な日常業務の中で無理なく実施できる就労支援のノウハウ提供のほうが効果的と考えられ、まずはがん専門医向けのガイドブックを企画した。臓器別専門性を超えた活用が期待される。がん専門医向冊子を参考にして、がん医療に関わる看護師や薬剤師向けガイドブックへの展開も期待される。

4. 倫理面への配慮

本研究班で実施した調査においては、ヘルシンキ宣言第5次改定および厚生労働省が定める臨床研究に関する倫理指針および疫学研究に関する倫理指針に従い、適宜、調査実施前に関係機関の倫理委員会の承認を得ている。インフォームドコンセントの取得にあたっては、研究目的の詳細な説明、結果公表に際しての匿名性の保持、個人情報の保護、自由意思による研究への参加等を保証した。

5. 発表論文

(1) 学術雑誌

1. Takahashi M: Psychosocial distress among young breast cancer survivors: implications for healthcare providers. *Breast Cancer* (in press)
2. Saito N, Takahashi M, Sairenchi T, Muto T: The impact of breast cancer on employment among Japanese women *Journal of Occupational Health* (in press)
3. 高橋 都: がんサバイバーシップとは何か — 充実した社会生活を実現するための研究と支援について. *予防医学* (印刷中)
4. 高橋 都: がん患者の就労支援 — わが国の現状と今後の課題 *公衆衛生* 45:987-991, 2013
5. 高橋 都: サバイバーシップ研究とは何か — 「その後」を支える医療に向けて *日本医事新報* 4654号 p30-33, 2013
6. 高橋 都: がん診断後の就労生活の充実に向けて *医学のあゆみ* 245: 546-548, 2013
7. 柴田喜幸: 「がん」と「就労」の融合 — キャリア・アンカーの視点から *医学のあゆみ* 245: 549-550, 2013
8. 森 晃爾: がん患者の就労支援—産業医の立場から *医学のあゆみ* 245: 612-613, 2013
9. 江川京子, 丸光恵: がん患者の就労支援—看護師の立場から. 子宮がん治療後の倦怠感への支援 *医学のあゆみ* 245:679-681, 2013
10. 錦戸 典子: 患者の就労支援—産業看護職の立場から. 産業看護職の活用による就労支援の拡大を! *医学のあゆみ* 245:900-902, 2013
11. 山田 裕一: がん患者の就労支援—治療後の就労体験について. *医学のあゆみ* 245: 973-974, 2013
12. 春名 由一郎: がん患者の就労支援—“障害”と“がん”の比較. *医学のあゆみ* 246:207-209, 2013
13. 大津 真弓, 和田 耕治: がん患者の就労支援—主治医ができるがん患者の就労支援. 臨床現場の好事例からまとめた5つのポイントの紹介 *医学のあゆみ* 246:274-276, 2013
14. 和田 耕治, 大津 真弓, 立石 清一郎, 平岡 晃, 田中 完, 田中 宣仁: 働く世代のがん患者に対する治療と仕事の両立支援に関する課題. *日本医事新報* 4642:36-40, 2013
15. 丸 光恵: 思春期から若年成人期のがん患者・サバイバーをめぐる諸問題. *札幌保健科学雑誌* 2: 1-10, 2013
16. 高橋 都: 血液悪性腫瘍寛解状態—がんサバイバーシップの視点から. *JIM* 23: 238-240, 2013

(2) 書籍

1. 高橋 都: 「治療」と「就労」の両立に向けて. 国立がん研究センターがん対策情報センター編 わたしも、がんでした — がんと共に生きるための処方箋, pp134-139 日経BP社, 2013

6. 研究組織

①研究者名	②分 担 す る 研 究 項 目	③所 属 研 究 機 関 及 び 現 在 の 専 門 (研 究 実 施 場 所)	④所 属 研 究 機 関 に お け る 職 名
高橋 都	患者と各関係者向け支援リソースの開発と評価（統括）	国立がん研究センター/がん対策情報センター、公衆衛生学、社会調査	がんサバイバーシップ支援研究部長
森 晃爾	職場と産業医向け支援リソースの開発と評価	産業医科大学・産業生態科学研究所、産業医学	教授
立石清一郎	職場と産業医向け支援リソースの開発と評価	産業医科大学・産業医実務研修センター、産業医学	講師
柴田喜幸	各種研修カリキュラム企画と実施手法の検討	産業医科大学・産業医実務研修センター、教授設計学	准教授
宮下光令	研修効果の評価指標選定と分析手法の検討	東北大学大学院医学系研究科保健学専攻、緩和ケア看護学	教授
高山智子	拠点病院相談支援センター向け支援リソースの開発と評価	国立がん研究センター/がん対策情報センター、健康社会学	がん情報提供部長
錦戸典子	産業看護職向け支援リソースの開発と評価	東海大学健康科学部、産業看護学	教授
堀越由紀子	医療ソーシャルワーカー向け支援リソースの開発と評価	東海大学健康科学部、社会福祉学	教授
青儀健二郎	乳がん患者向け支援リソースの開発と評価	四国がんセンター、乳腺・内分泌外科	臨床研究推進部長
春名由一郎	調査分析、支援リソースの評価	高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター、障害学	主任研究員